



グリーンポトスニュース

64号：2002年12月

街角にはクリスマスツリーが飾られ、もうすぐクリスマスです。そして、今年の総決算と忙しい毎日を過ごされているかと思います。今月も、予防注射の話題で、『アナフィラキシー反応』です。

アナフィラキシー反応

今月の話題は、あまり聞いたことのない言葉ではないでしょうか。「アナフィラキシー反応」とは、アレルギー反応のI型で、いわゆる“ショック反応”です。アレルギー反応の中では一番激しく、そして恐い反応の一つです。蜂にさされた時や、歯医者さんでの局所麻酔薬によるショック反応も、これに当たります。また、抗生剤をはじめとする各種の薬剤においても起こります。予防接種時においても、全国で15万件に1回の割合で毎年発生しております。

アナフィラキシー反応が一度始まってしまうと、適切な処置を施さないと死に至ります。全身が真赤になり、血圧が低下し、吐気や嘔吐をし、呼吸も苦しくなります。

アナフィラキシー反応に効果のある唯一の薬剤が、アドレナリンです。予防接種を行う施設においては必ず、置いてあります。しかし、アドレナリンは心臓の働きを極端に刺激するため、少量でも、大きな反応を引起します。そのため、使用においては、冷静な判断が必要です。

アナフィラキシー反応は、即時的な反応なため、予防接種後10分以内には症状が出始めます。そのため、予防接種後一定時間は病院内に留まっております。時間がないからと言って、早くクリニックより離れてしまうと危険なこともありますので、予防接種時には、時間には余裕をもって来院してください。

予防接種もお薬ですので、副作用はあります。だからと言って、予防接種を受けないと病気になってしまい、これも困ったものです。かめざわクリニックは、院長をはじめ、スタッフが、対応になれている為、万が一発生しても、しっかり対応いたしますので、安心して、予防接種を受けてください。

